

地区の現況と課題

生涯学習推進ゾーン内に各施設が点在している他、施設の老朽化が進み多様なニーズに応えられなくなっている。また、慢性的な駐車場不足や周辺道路も狭隘で歩行者の安全が確保できていない状況である。このため、施設の建て替えにあたっては、敷地内に再配置し都市機能の相乗効果を高め、周辺インフラを一体整備することで新たな交流・活動を創出する。

計画策定プロセス

利用者アンケート調査の実施

生涯学習センター建設にあたり、建て替え前の研修棟の利用内容、感想や新たな施設への要望等についてアンケート調査を実施。利用者ニーズを過不足なく満たす施設機能を選定した。

公民館運営審議会における事業計画の審議

平成 23～28 年度にかけて、施設整備や運営方針の検討、工事の進捗状況の確認、利用者からの要望と運営側が把握している課題等を調整し、利用促進につなげる方策について審議いただいた。

建設現場見学会の開催

施設工事中に、市民・利用団体等を対象とした現場見学会を複数回開催することで、施設への興味関心が深められ、完成後に積極的に利用しようとする動機付けが図られた。また、完成イメージを共有しながら計画の改良を図ることができた。

プロジェクト会議の開催

複数の課からなる横断的なプロジェクト会議を継続的に開催。ゾーン内施設の運営が各々異なる状況であったことから、整備に合わせて閉館日や受付窓口、組織体制等の施設運営方針を見直した。また、周辺自治体との広域利用策や、利用者動線の検討を行い新たな施設を利用する人々が交流できるような空間の演出を協議した。

中村隆象 古賀市長のコメント

今回の研修棟建て替えや図書館増床を立案するにあたり、敷地内に建て替えることで一層の拠点化を図り、また別棟であった中央公民館と図書館・歴史資料館を渡り廊下で接続し、世代を超えた学習活動や市民交流の創出をめざすこととして、テーマを「つなぐ」と決めました。これら3施設がつながることで1+1+1が3ではなく、5にも6にもなるようパワーアップし、市の生涯学習の一大拠点としてますます機能して行くことを切に願っています。

公民館運営審議会 森部会長のコメント

長年待ち望んでいた生涯学習センターの完成と今回の受賞は、計画段階から関わってきた本審議会にとりまして大変喜ばしいことです。生涯学習センターをゾーン全体の玄関口として利用者間の交流を進めることで、学習活動のきっかけが生まれ、ゾーン全体がにぎわうことを期待しています。



生涯学習センターの外観



生涯学習センター内諸室と増床した図書館



生涯学習推進ゾーンの全景



建設現場見学会の内容

整備を進める3つのキーワード

- 1. 人と人をつなぐ** 新しい研修棟を、「リブスプラザホール」と「サンフレアこが」に囲まれた広場に建て、出入りのしやすい駐車場を整備することで利便性を高め、ゾーン全体をつなぎ、新たな人の流れを生み出します。
- 2. かたちをつなぐ** 建物の空間を、見通しのよいフォーラム(区別吹抜ホール)を中心に、同じ用途の部屋を階毎に集め、「多様な活動が見えつながる開かれた空間」にします。
- 3. 未来へつなぐ** 建物の機能を、自然の恵みを活かした省エネ・省コストな造りとし、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインとすることで、世代を超えて長く使える施設をめざします。

■ゾーン全体の玄関口として整備 ■人が集い、活動が生まれるゾーンへ ■歩率分を明確にしたエリア構成

施設整備の基本方針